

2022年度の社会賞審査結果について、2021年12月14日に理事会承認されました。以下のとおり報告いたします。

2022年度学会賞審査結果

	山村記念賞 受賞予定者	青洲賞 受賞予定者	松木賞 受賞予定者	社会賞
業績名	脳波解析を用いた麻酔作用と麻酔モニター法に関する研究	希釈式自己輸血の有用性と生体の生理的变化	世界大戦を中心とした日本における麻酔科学会の発展-欧米の影響と外科医の貢献	医療で日本の存在を向上させる
氏名	林 和子先生	斎藤 淳一先生	菅井 直介先生	大村 昭人
所属	京都中部総合医療センター	弘前大学医学部附属病院	介護老人福祉施設フィオーレ久里浜	帝京大学医学部 帝京大学附属溝口病院
講評	麻酔薬、麻酔補助薬などが麻酔深度や脳波に及ぼす影響について、新たな手法を用いて解析を行った。一連の研究は麻酔関連薬の相互作用だけでなく、全身麻酔の作用機序へと迫るものであり、麻酔科学に与えるインパクトは大きいと思われる。応募者は30年に及ぶキャリアを通じて研究活動を継続しており、その努力は評価に値するとともに、今後の発展が期待される。何れも所属する教室における臨床研究であり、申請者が全ての業績の責任著者である点からも、山村記念賞にふさわしいと考える。	希釈式自己血輸血の有用性、および適切な管理方法、合併症の調査と多岐にわたる研究成果であり、自己血輸血に関する一連の研究で臨床的意義は高い。一貫した研究テーマの下、多角的に解析を行い、論文発表のシリーズを形成された。特に本邦のデータに基づいた研究成果であることは、我が国をはじめとするアジア諸国の臨床家にとって有用な情報を提供するものと思われる。	戦前から戦後にかけての日本の麻酔科の歩みを応募者本人の経験に基づいて記載し、本邦の麻酔科学の歴史をより正確に理解する上で価値があると考え。第二次世界大戦後からの麻酔科学の発展において、あまり触れられていない外科医師の貢献についての記述は興味深い。過去の松木賞の歴史にもほとんどない、麻酔の歴史に関する論文である。	大村氏は、医療機器・再生医療等製品国際標準獲得推進検討会構成員や、ISO国内委員会委員長を歴任され、現在は国際議長に現職でおられる。日本におけるデバイスラグに対する問題意識をもち、多くの著作を持って医療を成長戦略とするための提言を行なっている。本社会賞の目的に鑑みても最適任であると考え。

※受賞予定者は（1）2022年度の定時社員総会開催時の授賞式に出席（代理人でも可）と（2）第69回年次学術集会にて授賞記念講演を以て受賞とみなします。

詳細は受賞予定者へ個別にご連絡いたします。

※2022年度受賞若手奨励賞は引き続き募集を行っております。（募集期間：2022年1月20日迄）